

2018年度大阪

## NITE講座(シラバス)

科目名	事業者等における製品安全対策の基礎知識	教室定員	50名	拠点 (開講機関)	大阪 (製品評価技術基盤機構)	講義日時	10月3日(水) 10:00-17:50 10月4日(木) 10:00-17:45
科目概要(300字)	近年、種々の製品事故が顕在化し消費者が使用する製品の安全性が大きく注目を集めています。製品事故は製品に原因がある事故だけではなく誤使用による事故も発生しています。本講座では消費者行政、製品事故動向、事故事例、事故調査手法、リスクアセスメント、誤使用事故の防止、事故情報の活用等について解説します。本講座を受講することにより、最新の製品事故事例と調査方法、リスク評価、標準化等による事故防止、事故情報の活用等についての基礎的かつ幅広い知識を得ることができ、企業等における設計や製造時における製品安全対策等に役立てることができます。						

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取り纏め者
製品安全行政	1	オリエンテーション 製品安全施策と消費者行政の概要	日本において製品事故のリスクを低減し安全を確保するための法・制度やどのような行政施策が実施されているかについて、消費者行政を含めてその概要を解説します。	10/3(水)	製品評価技術基盤機構 (大阪市住之江区南港北1-22-16)	製品安全センター リスク評価広報課
製品事故の現状	2	製品事故の動向	消費生活用製品の事故動向を最新のデータを用いて多角的な面から紹介します。			
	3	最近の事故事例、原因究明(電気分野以外)	電気分野以外の製品事故と原因究明の具体的事例を通じて、近年の事故を考察します。			
	4	事故事例における調査手法(電気分野以外)	電気分野以外の製品事故調査のポイントを解説した後に、擬似的に実践していただきます。			
	5	最近の事故事例、原因究明(電気分野)	電気分野の製品事故と原因究明の具体的事例を通じて、近年の事故を考察します。			
	6	事故事例における調査手法(電気分野)	電気分野の製品事故調査のポイントを解説した後に、擬似的に実践していただきます。			
製品事故の防止対策	7	過去の重大な製品事故と安全確保対策	石油温風暖房機による一酸化炭素中毒死亡事故等、過去の重大な製品事故やその行政指導等について紹介します。	10/4(木)		
	8	リスクアセスメントの活用	リスクアセスメントの理論を解説した後、実際にリスク評価手法を体験していただきます。			
	9	誤使用事故の防止 (事業者の取り組み、消費者の役割)	誤使用や不注意によって発生している製品事故について、誤使用防止の観点から解説します。			
	10	標準化による事故防止対策	事故の未然防止対策として有効な標準化について解説します。			
	11	海外の製品安全動向	欧米等における消費者製品安全への取組やどんな製品やリスクが問題になっているかについて紹介します。			
	12	消費生活用製品の事故情報の活用	消費生活用製品の事故情報を、FMEAやFTAといった信頼性解析手法を用いて体系的に整理し、設計等に活用する方法を考察します。			

注:製品事故が起こる可能性を洗い出し、どのようにリスクを低減させるのかを検討し、決定する一連の流れ

2018年度東京

## NITE講座(シラバス)

科目名	事業者等における製品安全対策の基礎知識	教室定員	50名	拠点 (開講機関)	東京 (製品評価技術基盤機構)	講義日時	10月10日(水) 10:00-17:50 10月11日(木) 10:00-17:45
科目概要(300字)	近年、種々の製品事故が顕在化し消費者が使用する製品の安全性が大きく注目を集めています。製品事故は製品に原因がある事故だけではなく誤使用による事故も発生しています。本講座では消費者行政、製品事故動向、事故事例、事故調査手法、リスクアセスメント、誤使用事故の防止、事故情報の活用等について解説します。本講座を受講することにより、最近の製品事故事例と調査方法、リスク評価、標準化等による事故防止、事故情報の活用等についての基礎的かつ幅広い知識を得ることができ、企業等における設計や製造時における製品安全対策等に役立てることができます。						

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取り纏め者
製品安全行政	1	オリエンテーション 製品安全施策と消費者行政の概要	日本において製品事故のリスクを低減し安全を確保するための法・制度やどのような行政施策が実施されているかについて、消費者行政を含めてその概要を解説します。	10/10(水)	製品評価技術基盤機構 (東京都渋谷区西原)	製品安全センター リスク評価広報課
製品事故の現状	2	製品事故の動向	消費生活用製品の事故動向を最新のデータを用いて多角的な面から紹介します。			
	3	最近の事故事例、原因究明(電気分野)	電気分野の製品事故と原因究明の具体的事例を通じて、近年の事故を考察します。			
	4	事故事例における調査手法(電気分野)	電気分野の製品事故調査のポイントを解説した後に、擬似的に実践していただきます。			
	5	最近の事故事例、原因究明(電気分野以外)	電気分野以外の製品事故と原因究明の具体的事例を通じて、近年の事故を考察します。			
	6	事故事例における調査手法(電気分野以外)	電気分野以外の製品事故調査のポイントを解説した後に、擬似的に実践していただきます。			
製品事故の防止対策	7	過去の重大な製品事故と安全確保対策	石油温風暖房機による一酸化炭素中毒死亡事故等、過去の重大な製品事故やその行政指導等について紹介します。	10/11(木)		
	8	リスクアセスメントの活用	リスクアセスメントの理論を解説した後、実際にリスク評価手法を体験していただきます。			
	9	誤使用事故の防止 (事業者の取り組み、消費者の役割)	誤使用や不注意によって発生している製品事故について、誤使用防止の観点から解説します。			
	10	標準化による事故防止対策	事故の未然防止対策として有効な標準化について解説します。			
	11	海外の製品安全動向	欧米等における消費者製品安全への取組やどんな製品やリスクが問題になっているかについて紹介します。			
	12	消費生活用製品の事故情報の活用	消費生活用製品の事故情報を、FMEAやFTAといった信頼性解析手法を用いて体系的に整理し、設計等に活用する方法を考察します。			

注:製品事故が起こる可能性を洗い出し、どのようにリスクを低減させるのかを検討し、決定する一連の流れ